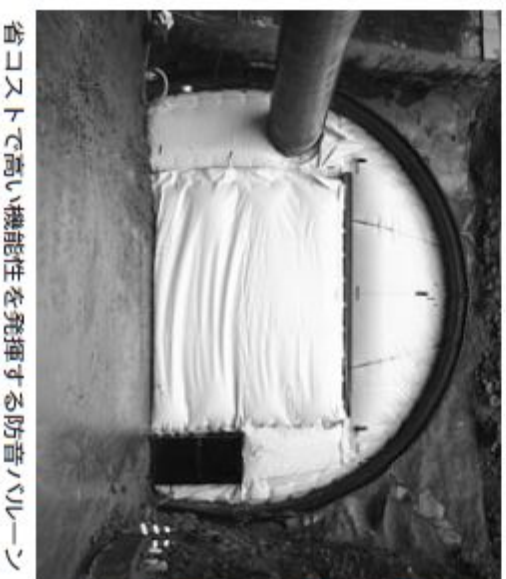


# 「防音バルーン」を登録

## トンネル掘削騒音を低減

トンネル工事き効果的に漏れ出る音を低減でき、音が100以上の高周波帯域になるにつれ防音効果は高くなり、バルーンが、外部に掘削音を伝えにくくする「防音バルーン」を国土交通省のNHTIS(新技術情報提供システム)に申請し、6月2日付で登録となった。



省コストで高い機能性を発揮する防音バルーン

「防音バルーン」の本体は、ポリ塩化ビニルなどが素材の厚さ1mmの遮音シート。坑口の断面形状に合わせて取り付け、坑内から送風機で風を送るとシートが膨らみ断面周りを密着し、すき間を埋める。そのため、トンネルを掘削する際の騒音が外部

人口が密集する市街地など現場の場合は、防音効果を高めるため、バルーンを連続増設したり、従来からある金属製の防音屏と組み合わせたりする。山間部の現場でも、牧中の牛や馬が大きな音に驚き暴走してけがをしたり、お確が近ついた家畜が流産したりと神経を傷める必要がある。2008年に自社オリジナル製品として開発し、4年目。北海道から沖縄まで全国にある高速道路や国道、県道、鉄道などのトンネル工事23件の採用実績がある。取り扱いが容易なため、設置は1日で十分。価格は金属製に比べて3割ほど安く、送風機の電気代を含めても経済的な金額となる。同社はもとより職工のコンクリート養生を行うバルーン工法をネコノと共同開発し、全国に名称を広めてきた。今回は同社単独によるオリジナル製品の登録となる。登録手続きを進めてきた開発部の波多野卓氏は「存在として単独開発した製品を世に送り出し、登録していく方針を決めた。防音バルーンがくなり受け入れられるのは従来のバルーン工法が全国で知られるようになり、その効果や信頼性が広まったからではないかと確かな手応えを感じ取っている。